

登録コード	EKG05900	開講年度	2026			
授業科目	情緒障害・行動問題の理解と支援				担当教員	奥村 真衣子
英文授業名	Understanding and Support for Children with Emotional and Behavioral Disorder				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限	履修学年
講義室	教育E 1 0 6		授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】			【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
	教育の専門職としての学識・技能			情緒障害・行動問題のある児童生徒の特性について、理解することができる。 記録やアセスメントを通して、行動問題の理由や維持要因を分析し、支援策を提案することができる		
	子どもの多様なニーズへの対応力			校内リソースの活用、専門機関との連携について、その方法と課題を説明することができる。		
(2)授業の概要	本授業は講義と演習により展開する。行動や情緒の面に困難を持つ、主として場面緘黙の児童生徒の心理的・行動的特性、および、周囲との相互作用による困難の維持について、ワークシートや支援教材を通して実践的に理解するとともに、教育現場での実用を想定した具体的な支援方法の検討を行う。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス—本授業の進め方— 第2回：行動問題の理解—環境との相互作用の視点— 第3回：行動問題の理解—行動維持のメカニズム— 第4回：行動問題への支援—支援立案の基本的な考え方— 第5回：行動問題への支援—行動の記録・アセスメントの活用— 第6回：併存症・二次障害—内在化障害と外在化障害— 第7回：併存症・二次障害—興奮・暴力を伴う行動— 第8回：併存症・二次障害—心身症— 第9回：併存症・二次障害—不登校— 第10回：場面緘黙の心理—疫学・成因・行動論からの概念化— 第11回：場面緘黙の心理—克服過程とその影響因— 第12回：場面緘黙の支援—専門家との連携— 第13回：場面緘黙の課題—青年期の実態と社会適応— 第14回：まとめ—行動・情緒障害教育の展望—					
(4)成績評価の方法	演習課題への取り組み（50％）とレポート（50％）により総合的に判断する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可					
(5)履修上の注意	特になし					
(6)質問,相談への対応および連絡先	奥村研究室（東校舎2階） Tel: 026-238-4206 E-mail: maio@shinshu-u.ac.jp					
(7)成績評価の基準	「卓越している」：情緒障害や行動問題に対する理解と支援について、達成目標に示した ～ のすべての項目の視点から検討している。 「かなり上にある」：情緒障害や行動問題に対する理解と支援について、達成目標に示した ～ のうち2つの項目の視点から検討している。 「やや上にある」：情緒障害や行動問題に対する理解と支援について、達成目標に示した ～ のいずれかの視点から検討している。 「水準にある」：情緒障害や行動問題に対する理解と支援について、何らかの視点から検討している。					
(8)事前事後学習の内容について	所属校や実習校の事例と関連付けた検討が求められるため、子どもの実態や周囲の対応に関する事前の情報収集や、各校が抱える課題の整理をしておくこと。 この授業は90時間の学習を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。					
【教科書】	指定しない					
【参考書】	・かんもくネット著(2008)「場面緘黙Q&A—幼稚園や学校でおしゃべりできない子どもたち」学苑社 2,090円 ・リンジー・バークマン著/園山繁樹監訳（2018）「場面緘黙の子どもの治療マニュアル—統合的行動アプローチ」二瓶社 1,980円 ・エイミー・コトルバ著/丹明彦監訳（2019）「場面緘黙の子どものアセスメントと支援—心理師・教師・保護者のためのガイドブック—」遠見書房 3,080円 ・園山繁樹（2022）「幼稚園や学校で話せない子どものための場面緘黙支援入門」学苑社 1,760円 ・高木潤野著（2017）「学校における場面緘黙への対応:合理的配慮から支援計画作成まで」学苑社 2,200円 ・ミルテンバーガー著/園山繁樹他訳（2006）「行動変容法入門」二瓶社 3,960円					